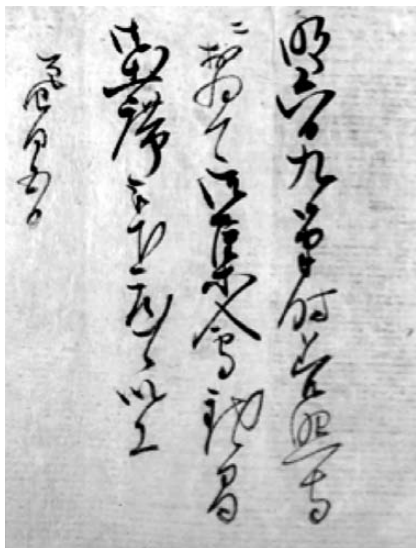


「上山城」からのたより 初秋・第88便

会津藩士達の焦り

今回は幕末史の一場面を描いた興味深い文書を一つご紹介いたします。

掲載した画像がその文書となります（秦トヨ氏寄贈・上山城収蔵）。この文書は、慶応四（一八六八）年閏四月五日、上山藩の飛び地（上山から離れた場所にある上山藩の領地）越後七日市陣屋（現在の新潟県長岡市）詰の同藩士秦多治馬・吉江伝五左衛門に対し、会津藩士秋月悌次郎（他二名）から送られた書状です。その中には次のように記されています。



明六日九ツ半時、善照寺二おいて御集会致候間、御出席被下度候、以上

この書状で秋月らは、善照寺（おそらく新潟県内）にて明六日九ツ半時（午後一時頃）に開催する会議への出席を、上山藩士の秦・吉江に対し求めています。

この書状が出された時期は、新政府軍（薩摩藩・長州藩など）が同年一月の「鳥羽・伏見の戦い」で旧幕府軍（会津藩・桑名藩など）を破った後に発した会津藩征討命令を受け、奥羽諸藩は命令への服従か・会津藩救済を新政府に求めるか、その選択をめぐり大いに動揺していました。

そんな緊迫する状況下で秋月ら会津藩士達が上山藩士の秦・吉江と話し合いたかったことは何か？ おそらく、会津藩救済への協力要請についてではなかったかと推測されますが、会議への出席を求める依頼状を開催日前日に差出しているあたりからは、当時存亡の危機に立たされていた会津藩士達の焦りがひしひしと伝わってきます。短い文面ながら、臨場感あふれる文書といえるでしょう。

（公財）上山城郷土資料館 学芸員 長南伸治

【常設展示室から】二階第三展示室の土岐家関係資料を一部展示替えします。